

全油販連いっぷくコーナー

「砂むら元八まん」

今回は、マーガリン工業会前専務理事の話の続編を先延ばしして、初詣のことを書くことにしたのでご容赦ください。

私の初詣は、東西線沿線の比較的新しい埋立地域に住んでから、門前仲町にある道路を挟んで隣接する富岡八幡宮と深川不動尊（深川成田山）で、破魔矢は不動尊の絵馬付きの八百円のもの決めていた。が、昨年未の富岡八幡宮の宮司事件である。私は氏子でもなく、後年崇られても困るので、今年は富岡八幡宮を遠慮させていただくことに決めた。

初詣には、例年どおり正月二日で箱根駅伝の往路優勝が決してから家を出た。今年は自転車での片道小一時間の願掛け旅行である。途中、店の扉にある首から先の小さな犬の彫刻に注連飾りが掛かっているなど、戌年だねえなどと感心しながら移動するのもやはり楽しいものだ。当然、和装のお嬢さんたちを見つつですが…。

そうこうして、門前仲町の高速道高架下の駐輪場に自転車を置き、境内へと向かう。例年は両者ともに参拝者が百m超の参道に並びきれずに永代通りにも及んでいたが、今年の富岡八幡宮は本殿前に数列並んでいるだけで、不動尊も参道内に収まっていた。

参拝後に縁日屋台の大判焼きで小腹を満たし、破魔矢を背中に入れて、葛西橋通りと永代通りとの間をのんびりと自転車を漕いで帰路についたが、南砂あたりで神社を見つけた。

そして神社名を見て驚いた。「富賀岡八幡宮」。

富岡八幡宮の参道の半分以下くらいの境内で、参拝者もご近所さんといった感じである。しかしながら、富岡八幡よりも賀が多くある、つまり「あり賀多い」神社であり、是が非でも拝んでいかねば、と足を踏み入れた。

境内の手水舎脇の御由緒に、富岡八幡宮より古いとあり、再度驚いた。東京都神社庁のHPにある簡潔版には「土地開発以前の平安朝末より鎮座して当地方の産土鎮守神として広く信仰を集めている。深川の八幡宮の元宮と云う説もあり当宮を元八幡宮（もとはちまん）と俗称されている。江戸期中、末時代には江戸の郊外の名所として有名となり、特に桜並木の参詣道は江戸名所図会或は広重の『名所江戸百景』によりその様子が分かる。」とある。

そして、名所江戸百景の「砂むら元八まん」には「水平線に浮かぶのは房総の山々。現在の荒川河口付近の様子で、干潟地となっていた。右下の八幡宮は周囲の自然が厳しい事から内陸の深川に移り、富岡八幡宮を創建するに至った。境内はそのまま残されたのでこの八幡は“元八幡”と呼ばれた。」との解説もある。

帰りしなに、亥年は不動尊の破魔矢と富賀岡のお守りと、鬼が笑うことを決めました。さて、皆々様、あり賀多き戌年になりますように！！

麻賀倫太郎